

部長	理事	課長	課員	担当者

議事録要旨

会議名	第2回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
日時	平成30年5月16日(水) 19:30~21:30
場所	あわら市役所 101 会議室
出席者	<p><部会員> 市民 / 笹原修之(部会長) 西田幸男 福井工業大学 / 川島洋一(教授) 市職員 / 鳥山公裕、中辻雅浩、細川正樹、竹内優美、坂井真生</p> <p><事務局> 新幹線まちづくり課 / 永井課長、山本補佐、赤神主任 1-1 Architects / 石川</p>
欠席者	<p>部会員 / 八木康史、高木めぐみ、森嗣一郎 名古屋工業大学大学院 : 伊藤孝紀(准教授) 市職員 / 中島之裕</p>
内容	<p>【部会長あいさつ】 <u>部会長:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・徐々に意見も煮詰まり、皆様の頭の中でも駅前のイメージが出来つつあると思う。デザイン部会の意見や市の判断も踏まえてかたちが出来てくるかと思うが、6月の議会に向けて決定していく時期に来ている。 ・昨日の新富繁栄会総会の中でも話が出たが、地元の人がほしいものと行政のほしいもののギャップがある。どちらもやっていく必要があるが、今の時点では、お互いの優先順位が違うと感じた。 ・おそらくゴールは同じだが、ルートが違うということでもあると思うので、説明の仕方も大切になってくるかと思う。 ・駅前の計画をパーツごとに対象者を明確にして話をしていかないと、今後もずっと計画に対して違和感を覚える人が出てくることになる。 ・6月議会においては、議員の方は地域の代表者なので、ぜひ丁寧な説明をしていただきたい。 ・部会としてはこれで最後かと思うが忌憚のないご意見をお願いしたい。 <p><u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月議会前(まちづくりプラン策定まで)の部会としては最後だが、ここまではあくまで機能の話を検討してきたが、これからも様々な議題に関して部会で話し合っていくことになると思う。 <p><u>部会長:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日は議会前最後とのことなので、言い残すことが無いよう、協議をお願いしたい。

【協議事項】

(1) 芦原温泉駅周辺まちづくりプランについて

事務局：

- ・前回4月16日の第1回まちづくりデザイン部会で報告させていただいた後、市長協議等を繰り返し、本日のプラン案となった。前回からの変更点については以下のとおり。
- ・賑わいホールをやや大きく変更
- ・屋外屋根スペースをやや小さく変更
- ・「店舗A」から「店舗(カフェ)」へ書き換えた。(カフェのニーズが高かったため。) 大きさも80㎡から100㎡へ変更した。
- ・観光案内魅力体感施設に関して説明文を追加。1階には観光案内所と逸品販売所、2階にはあわら市・越前加賀魅力体感施設を設置。あわら市・越前加賀魅力体感施設には、地域の文化や歴史等が学べるジオラマや映像を駆使した展示を行う想定をしている。
- ・金津祭の山車展示のスペースは今後の検討次第ということとなり、表記を消している。
- ・2階部分に人が行きにくいのではないかという意見があったが、庁内で検討した結果、現状図のように2階建ての2階に配置するという事となった。
- ・西口駐車場は2階建て3層使いの立体駐車場を検討している。
- ・現状西口と東口を合わせて378台の駐車場があるが、計画案は立体駐車場で300台、東側で164台(合計464台)である。
- ・土地活用検討街区について、新幹線開業に向け、民間企業の動向を注視しつつ、計画に関与していきたいと考えている。
- ・土地活用検討街区のエリアは、今後の動向次第なので、範囲を明確にしない表現としている。
- ・事業費は全体で約20億円、西口駅前広場で約12億円、立体駐車場で約7.7億円、土地活用検討街区は調査・設計費として約0.3億円としている。
- ・近隣市の方も芦原温泉駅を利用させていただくターゲットとして、その対象エリアと人口、観光入込客数を示している。
- ・広域図面は原則上記をもとに修正をしているが、竹田川のスロープ通路の計画などについては表記を消している。(新幹線開業までの優先度としては低いため。)
- ・資料3については、賑わい広場の活用例を4パターン示している。
- ・今後5月28日は日中に議会(全員協議会)、夜は芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会が開かれる予定だが、おそらく、本日の資料1、2に加えてイメージパースを提出することになると思われる。

部会長：

- ・行政としては、土地活用検討街区など他のエリアと比較して、西口駅前広場や立体駐車場の優先順位が高いということだと思う。
- ・図面の変更点についての意見があれば教えてほしい。

事務局：

- ・ロータリーについては、旋回の経路などを検討したが、賑わい空間等の施設ができることによってスペースが足らなくなることが分かった。
- ・一般車を数台停めることは可能だが、賑わい広場に柱がいくつか落ちることを踏まえる

と、使い勝手は悪いだらう。

- ・警察とも協議しているが、軽トラ市等で一時的に車が入る程度なら可能だが、常時車が入れるようにするには、安全確保等の課題が残ると意見をもらっている。
- ・上記より、事務局では、賑わい広場の駐車場利用は難しいと考えている。
- ・あわら市・越前加賀魅力体感施設は、前回の部会で2階に設けて人が来るのかという意見があったが、「2階に誘導するんだという強い信念でやっていく」との市長の言葉もあり、本日の図面のように示している。
- ・駐車場については、使い勝手の良いものを作り、近隣からの利用者を呼び込み、JRの乗降客数の増加にもつなげるようにやっていくというような方針となった。
- ・賑わいホールなど、各施設の大きさについては、今後の設計の中で詰めていく必要があるが、機能の配置としてはおよそ本日の資料のとおりにまとまってきている。

部会長：

- ・在来線駅舎から階段を降りた辺りは、屋根なしということになるのか。

事務局：

- ・雨が当たらないような配慮は必要だと思う。
- ・在来線駅舎の外壁を今のままにするのかという議論はすでにあるものの、時期や範囲は未定である。屋根は、その計画との関係にもよるが、何らかの雨が当たらないような配慮が必要であるという認識はある。

部会員：

- ・道路西側の立体駐車場へ向かう歩道には屋根はないのか。

事務局：

- ・現時点でない予定である。

部会長：

- ・立体駐車場に来る人は、傘を持ってきたりそれなりに対策をして来るのではないかな。
- ・少しの距離であれば、屋根でつなげておいた方がいいが、比較的長い距離があるので屋根なしでよいのではないかな。

部会員：

- ・近隣から呼び込むのであれば、立体駐車場まで屋根を整備して利便性を高め、売りにした方がよいのではないかな。

事務局：

- ・元々、道路西側にも歩道を描いていたが、土地活用検討街区やaキューブエリアの計画が未定のため、工事などに配慮して一旦なしとした。

部会長：

- ・屋根の表記は、今描いておかないと、後々設けるのは難しいのかな。

事務局：

- ・そのようなことはない。あくまで基本構想の画なので、今後の計画に盛り込むことはできる。

部会員：

- ・横断歩道上の屋根は難しいのかな。

事務局：

- ・(法的に)4.5mの高さが必要となり、それでは雨よけとして機能しないと考えている。
また、山車の通行があればその妨げとなる。

部会員：

- ・山車の展示スペースはなぜなくなったのか。

事務局：

- ・市長の話では、山車を賑わい広場に展示し、そこから出すという考えはないとのこと。
仮にそういった展示をするのであれば、映像や模型、写真を体感施設内で展示すべきだ
との意見であった。

部会長：

- ・先ほどあったように、濡れずにアクセスできる駐車場というのはよいと思う。屋根を後
で付けられるということであれば、無理に描く必要もない。

部会員：

- ・ひとまず、部会から屋根を求める意見が複数挙がったことを残しておけばよいのではな
いか。

事務局：

- ・aキューブの利用や視認性を考えるとアーケードがない方がよい可能性もある。
- ・立体駐車場は建ぺい率60%、容積率200%である。図面の紫塗り部分全てを立体化できる
わけではない。法的に目一杯建てて300台程度の駐車が限度なので、ここにさらにテナ
ントなどを入れるのは面積的に難しい。
- ・駅前一带について、専門家をアドバイザーとして迎えてPFIで事業を進めていく検討も
していたが、開業までの期限が迫っている中で、民間事業者(SPC)が手を挙げないリ
スクが高いと想定されるため、PFIの採用を見送る方針でほぼ決定した。(立体駐車場整
備など、部分での採用はあり得る。)したがって、西口駅前広場等の運営・管理方針に
についても皆様からご意見を頂戴したい。

部会長：

- ・ディベロッパーを募集することもないのか。

事務局：

- ・一帯でということはないが、部分での採用はあり得る。市長からは駐車場だけPFI
でもよいのではないかと意見もあった。

部会員：

- ・管理者の応募はたくさん来るのではないか。

事務局：

- ・駐車場については、指定管理とするか、建設と運営を任せられる企業体でプロポーザル
をしてもらうかなど、こちらで方法を検討していく必要がある。

事務局：

- ・PFIは設計段階から運営までをSPCに一連で任せられるが、従来方式では、設計、工事、
運営が全て切り離されるので、運営者にとって使いにくい施設になる恐れはある。ただ、
今の段階で運営者を決めることは難しいので、先々を見据えながら個別に決めていくの
がよいと考えている。

部会員：

- ・指定管理の条件にまちづくりの要素を入れることはできるか。

事務局：

- ・できると思われる。

部会員：

- ・山車を交差点付近から入れることはできるか。

事務局：

- ・交差点付近からは法的に難しい。車や山車を入れる場合は、交差点よりも東側からで想定している。
- ・そのため、植栽は可動式のものを想定している。

部会員：

- ・山車の待機は、ロータリーではなく、賑わい広場の方が雨よけもあってよいのではないか。

部会長：

- ・歩道を超えて賑わい広場へ山車を乗り入れる際に、わずかな段差であっても、車軸が折れる恐れがあることを皆懸念している。

部会員：

- ・一部歩道の縁石をなくして、歩道と車道をフラットにしてはどうか。

事務局：

- ・歩道は歩行者の安全のためのものであるため、それは難しいと思われるが、警察との協議次第である。

部会長：

- ・ビジネスホテル誘致については何か動きがあるか。

事務局：

- ・市長の話では、土地活用検討街区の開発は、民間の動向を見て、民間に任せられる部分は任せていきたいという意向のようである。

部会長：

- ・民-民で話が見つからない場合に行政が間に入るつもりがあるのか。

事務局：

- ・今は様子見の段階である。駅前開発がどのようになっていくのか、もう少し確定してこないと彼らも動き出しにくいのだと思う。
- ・全国から4件ほど検討している民間事業者がいるようである。

部会員：

- ・民間に委ねることによって、仮にその計画がなくなり、新幹線開業までに土地活用検討街区が整備されていないという状況は避けてもらいたい。少なくとも新幹線開業までに事業ができる下地づくり、もしくは駐車場としての整備等を進めてほしい。

事務局：

- ・それは難しい。ホテルなどから現状問い合わせをもらっているが、話がなくなる可能性もあり得る。そうなった場合に、土地活用検討街区に何もしないまま平成34年度末(新幹線開業)を迎える可能性もある。さらに、だからといって市が土地活用検討街区を買収して更地にするのではない。市は何か目的を持って更地にするにはあるが、目的が

明確でないのに用地買収をすることはない。

部会員：

- ・新富地区に駅前で何かしようという気運はないのか。

部会員：

- ・今のところそういった力はないと思われる。

部会長：

- ・例えば、外部からビジネスホテル出店の計画があったとして、同時に（もしくはその後）地元からその地区に小さな宿泊施設を計画したいという話が起きた時に、計画がうまくいかなくなってしまう懸念はある。

部会員：

- ・駅前の無電柱化の計画次第でも、商店街の各店の動き方について懸念が生じている。また新しくできる西口駅前広場の街灯も、既存の商店街の街灯と一体感を持たせてほしい。

部会員：

- ・街灯デザインは今後、違和感が出ないように計画をしていく。

事務局：

- ・景観まちづくり協議会で、無電柱化のイメージパースなども共有しつつ検討を重ねていく。
- ・今年度、県道の詳細設計を行い、平成 32 年度には工事完了の予定である。
- ・その際、道路幅員の拡張工事を行う。
- ・整備順序は、無電柱化 西口駅前広場整備の順
- ・およそ機能についてはまとまってきたので、この内容で賑わい創出協議会と議会に図っていきたいと思う。

部会長：

- ・コンビニ、ATM などの要望が現段階では細かすぎるということであれば、機能についてはこれでよいと思う。

部会員：

- ・協議会で伊藤先生のイメージを聞きながら判断していきたいと思う。
- ・前回の事業費からどの程度変わったのか。

事務局：

- ・27 億円から 20 億円に変更した。

部会員：

- ・このようなプランになった経緯がわかるような資料になっていると、協議会で皆さんが判断しやすいと思う。

事務局：

- ・計画の仕組み、機能の選定理由等について、説明資料を用意したい。

事務局：

- ・5 月 28 日までに賑わい創出協議会用の資料を委員の皆さんへ送付したいと考えているので、目を通していただきたい。

事務局：

- ・ 5月28日の賑わい創出協議会ではマスコミが入るので、翌日には案が外部に出ることにはなる。
- ・ 次回の部会は7月以降になると思われる。

事務局：

- ・ これは決議案ではないので、議会へは、通る通らないではなく、進捗の報告ということになる。基本設計に入る段階で予算化されるので、議会はそれを審議するということになる。

部会長：

- ・ プラン内容について議会が議決するという事はないということか。

事務局：

- ・ そのとおりである。

部会長：

- ・ ランドマーク的なものは何であると説明すべきか。

事務局：

- ・ 行政としては西口駅前広場全体がそれに当たると考えている。

部会長：

- ・ 修学旅行のバスはどこに停まるのか。

事務局：

- ・ ロータリーの観光バス乗降場所に停めることで想定している。

部会員：

- ・ あわら市・越前加賀魅力体感施設の内容について、現在の計画（ジオラマや映像展示など）ではあまりよくないと思う。2階になるのは仕方ないのかもしれないが、内容が今のままでは田舎臭いものになるように思う。貴重なスペースなのでもう少し活かし方を考えた方がいい。

事務局：

- ・ 行政内部でもそういった意見は出ているが、市長の強い思いがあるため現在の内容となっている。

部会員：

- ・ 他地域から集客し、お金を生むような施設であるべきだ。

(2) 今後の予定について

事務局：

- ・ 5/28(月) 議会（全員協議会）協議（まちづくりプランの協議）
- ・ 同日夜 芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会（まちづくりプランの最終協議 プラン策定）
- ・ 6月～7月 あわら市地域ブランド戦略会議（まちづくりプランの提言）
随時、まちづくりデザイン部会を開催予定。

【次回開催日時】

- ・（未定）